



八高新時代!! 君も挑戦、八高で三刀流!!

「知の泉」に「緑の風」吹く

令和5年7月10日(月)

兵庫県立八鹿高等学校

校長 山本 宏治

2

令和5年4月10日(月)の入学式、始業式で、生徒の皆さんに次の話をしました。

1 入学式

義務教育を終え、今日こうして高等学校教育へと一歩を歩み始めるその喜びは、これまでの皆さんの努力の賜であると同時に、ご家族をはじめ多くの方々の支えのおかげでもあります。そのことへの感謝の気持ちをあらためて強く心に刻み、高校生活のスタートに臨んでください。

新入生の皆さんに伝えたいこと。

一つめ。命は奇跡、生きていることは素晴らしい。皆さん一人一人が、家族にとって、社会にとってかけがえのない大切な人なのです。「あなたは大切な人」という思いが、伝わり、また、伝わってくる、そのような学校を、ともにつくっていきましょう。「あなたは誰かの大切な人であり、あなたにとって大切な人もいる」「人は誰もそのように人との絆の中に幸せを見いだしながら命をつないでいるのです。人の尊厳を守る「心」があってこそ、皆さんの個性が輝き、学んだことが社会で生きて働くことにつながります。感謝の気持ちと自ら学ぶ姿勢、そして「まごころ」をもって、高校生活を送ってください。

二つめ。心燃やす何かを見つけ、それに打ち込んでほしい。解剖学の権威でかつて京都大学総長を務められた平澤興先生の言葉を紹介します。「生きるとは燃ゆることなり。いざ進まん、わが燃ゆるこの道」。皆さんは、これから「挑戦」の時代を生き抜いていくこととなります。正解が見えない様々な課題を克服していく力が求められる時代です。形や内容の決まったことをマニュアルどおりにこなすことが最終の到達点ではなく、新しい解を編み出すことが目標となる世界へ一歩を踏み出す勇気と行動力が必要とされるのです。困難かもしれませんが、そのぶんやりがいや面白みのある前途が待ち受けています。夢とは、今できないことを追い求める意志、心燃やす決意なのです。

2 始業式

心燃やす若者が集う『学びの源流』となるうではありませんか。但馬の峰々に源を発する清らかな水がここ八鹿の地に集まり、誇らしき「知の泉」となって、ここから世界へあふれ出る、そのような八高をつくりたいと考えます。ポイントは二つ。

一つ。学校は「人の尊厳を守る場」です。皆さん一人ひとりが「大切な人」です。あなたのことを「かけがえのない大切な人」と思ってくれる人がいます。そして、皆さんにとっても「大切な人」と思える人がいるはずです。この、「あなたは大切な人」というメッセージが響きあう学校をつくりましょう。

二つ。誇り高き「知の泉」となるためには、皆さん一人ひとりが学びを深め、その知を交流させる必要があります。簡単に答えが見つからない問いや課題に対して、ひるんではいけません。今日「投打の二刀流」といえば誰もが大谷昇平選手を思い浮かべると思いますが、およそ百年前のアメリカ大リーグで活躍した、投打二刀流の名選手、ベーブ・ルースは次の言葉を残しました。

「簡単ではないかもしれない、でも、それは『できない』と言う理由にはならないんだ。」(It may not be easy, but that can't be the reason that I say "It's impossible".) どうぞ、「それ、無理」という言葉を封印して、「だったらこうしてみよう」というチャレンジ精神を持って高校生活に臨んでください。